令和５年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one.　No.110

R5.12. 1　「読書感想文コンクールで優秀賞」

夏休みに応募のあった「旭川市児童生徒読書感想文コンクール」で、見事「優秀賞」に輝いた１年生の 田中 夏海さんの表彰式を校長室で行いました。

数ある書籍から田中さんが選んだ本は、安壇 美緒さんの「ラブカは静かに弓を持つ」でした。課題図書でもあり、今年度の「本屋大賞第２位」にも選ばれた話題作です。

様々な人と関わる中で心情が揺れ動く主人公の葛藤を描いた音楽小説とのことです。

「正式に読書感想文に応募したのは今回が初めてです。受賞は嬉しくもあり驚いてもいます。主人公のように、私も無意識に透明な壁を作っているかもしれません。その壁を破って前に進むことの大切さを感じた作品でした」と思いを語ってくれました。

人と人が関わりを通じて変化していく心情の機微は、実体験もしくは読書を通じてでしか感じ取れない感情なのかもしれません。デジタル社会だからこそ、活字に直に触れ、行間に隠れた人間の奥深い機微を多くの生徒の皆さんに感じ取って欲しいと思います。

One for all, All for one.　No.111

R5.12. 4　「剣道部、遠軽で快勝！」

３日に遠軽で開催された地方大会において、男子Ａチームが優勝、Ｂチームが準優勝、女子が準優勝に輝くなど、秋季大会に続いて大きな成果を持ち帰ってくれました。

新しいチームとしてスタートしてまもない剣道部ですが、大会ごとに着実に力をつけているのがわかります。今大会には女子チームも出場するなど、男女そろっての健闘が目立ちます。

毎日格技場からは、張り詰めた空気が漂い、気迫のこもった掛け声が響き渡りますが、いざ練習が終われば明るく清々しい面々ばかりです。中学生の皆さんにも是非関心を持ってもらえればと思います。

One for all, All for one.　No.112

R5.12. 6　「成道会」

お釈迦様のお誕生を祝う「花まつり」、お釈迦様のご命日をしのぶ「涅槃会」、そして

本日のお釈迦様のご命日をしのぶ「成道会」を併せて「釈尊三大法要」と呼ばれます。

法話では、藤平先生が「隣にいる友人、目の前にいる先生、お世話になった先輩や後輩、校舎内ですれ違う初対面の生徒、すべてが皆『ご縁』です。このように、一人一人が遠い過去からのはかり知ることのできないご縁を重ねて『今』を迎えています。だからこそ、こうした『ご縁』に常に感謝し、大切にする心を持たなければならないのです」とお話しくださいました。

私たちは日々の忙しい生活に追われ、ついこうした『ご縁』を当たり前のように思い、礼節や儀礼を疎かにしてしまいがちです。挨拶一つとっても「今日も会うことができましたね」という喜びと感謝の思いが込められていることで、互いが幸せな気持ちなれることを思うと、改めて『ご縁』の大切さが身に沁みます。

One for all, All for one.　№113

R5.12. 6　「壮行会」

全国大会 12 年連続出場というとてつもない実績を打ち立てた女子駅伝部の壮行会を行いました。インフルエンザ拡大防止のため放送での実施となりましたが、生徒会総務役員が駅伝部の皆さんを紹介するたびに、盛大な拍手が廊下にまで響きわたりました。

その期待に応えるように、主将の 中野 芽衣さんが「北海道の記録を塗り替えるため、最高のコンディションでベストを尽くします」と力強く語ってくれました。

選手の皆さんは、これまでいくつもの試練を乗り越え、自己タイムの更新に努めてきました。主体的に練習に向き合う姿勢と、周囲への感謝を忘れない真摯な高校生活に多くの人が共感し、声援を送ってくれています。

並みはずれた体力、強靭な精神力は勿論ですが、信頼し合える仲間と応援してくれる沢山の方々の声援を感じながら、思い切り都大路を駆け抜けてきて欲しいと思います。

One for all, All for one.　№114

R5.12. 6　「らしさって？」

生徒会主催の放課後の取組が、多くの在校生の関心を集めています。「らしさってなに？」と銘打ったこの催しは、多様化するアイデンティティをみんなで根本から考えてみようとする試みです。

アドバイザーには以前教職員研修にもお越しいただいた SoilU の代表を務める 宮坂 舞花氏にご協力をいただきました。

「『普通』という言葉を盾に無理やり納得させられることがありませんか。そもそも『普通』って何に基づいて言っているのでしょう。その言葉だけで片づけられるのには違和感がありませんか？」

そんなやりとりが飛び交います。「自分らしさ」は誰かに決められるべきものではありません。多様な考え方や価値観の異なる集合体にあって、全てのものごとが『普通』とか『普通でない』といった単純な言葉で片づけられるわけはありません。

いま高校では「総合的な探究の時間」という、自分の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見し、解決していくという授業が行われています。今回の試みは生徒会の皆さんの主体的取組という意義に加えて、自分らしさを今一度見つめ直し個性を大切にするとともに、他者のアイデンティティも理解し尊重できる人間像を考えようとする姿勢があり、生徒たちの大きな成長がとても頼もしく感じられました。

One for all, All for one.　№115

R5.12.11　「スポーツ関連職業別分科会」

放課後の時間帯を使い、スポーツ分野に特化した大学、短大、専門学校等による進路ガイダンスを実施しました。昨今はスポーツ関連の職種が多様化し、生徒の興味関心が急激に高まっている分野です。

本校でも「スポーツ・メディカルフィールド」という名称で、２年生からより専門的な学習に触れられるよう昨年度から新たな選択群を設けました。

一概に「スポーツ」と言いましても、プロスポーツ選手をはじめ、インストラクター、トレーナー、体育教諭、理学療法士、作業療法士、整体師、鍼灸師、栄養士、スポーツアナリスト等、その職種は多岐に渡ります。

業務内容がより専門化されることにより、それに特化した知識や技能、資格が必要になってきます。各分野から専門のスタッフをお招きし、その職種に就くまでの道筋を詳しくご説明いただきました。今後の進路を考えるきっかけにして欲しいと思います。

One for all, All for one.　№116

R5.12.14　「１年生進路相談会」

１年生は、卒業後の進路といってもまだピンとこない生徒の方が多いように思います。本校では上級学校の研究内容や仕組みについて少しでも理解を深めてもらうため、年間を通して各種の進路ガイダンスを実施しています。

今回は、旭川地場産業復興センターで行われた専門スタッフによる「進学説明会」に、キャリアデザインコースの皆さんが参加してきました。

各大学、短大、専門学校別にブースが設けられ、生徒は各々興味関心のあるところに自由に赴き説明を聞くとういう形態のガイダンスです。

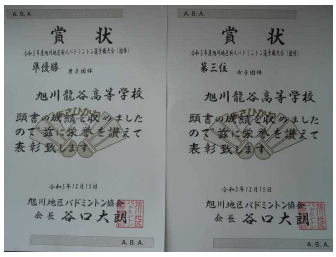
内容も、学部やコースの紹介、授業の様子、必要経費、取得可能な資格、奨学制度、受験対策など多岐にわたります。

現代は、上級学校に進み何を学ぶのか、自分の将来とどうリンクさせるのか、人生設計の過程においてどう位置づけるのかなど、進学に対する価値観も様々ですし、ただ通ったという肩書だけでは何の意味もなさない時代と言えます。

自分の将来を、自分で考え、自分で悩み、自分で決めなければ後悔する時代だからこそガイダンスのように多くの情報が得られる機会が大切になってくるのだと考えます。

One for all, All for one.　№117

R5.12.18　「バドミントンが男女揃って全道」



先週、鷹栖町総合体育館で行われた「旭川地区バドミントン選手権大会」で、男子団体が準優勝、女子団体が３位と健闘し、男女揃って全道への出場を決めました。

新チームとして、先輩方が築いてきた伝統にさらに磨きをかけ臨んだ試合だけに、この大会にかける思いも一入強かったことでしょう。

個人戦でも男子が３ペアー６名、女子が１ペアー２名が全道の切符を手にするなど、年々力をつけているバドミントン部。

年明けに帯広で開催される全道大会が待ち遠しく思われます。

One for all, All for one.　№118

R5.12.18　「バスケット男子、見事優勝！」

高体連秋季大会に続き、新人大会でも男子バスケット部が見事地区優勝に輝きました。

この大会は前回と異なり帯広で開催される全道大会へとつながります。一人一人が自分の役割をこなし、その上にチームワークがあってこそなしえた勝利だと思います。

バスケット部の２年生とは、先頃台湾への見学旅行を共にしました。礼節を重んじ自主練習に励む厳格な姿と、チームメイトで仲良く談笑する姿と、メリハリのある言動が印象的でした。試合でもそうした切り替えがここぞというときの集中力につながったのでしょう。

また、キャプテンの２年生 池崎　豪君は今大会の最優秀選手に選ばれました。今後も多くの選手がこの栄誉に続いてくれることでしょう。

女子は惜しくも３位でしたが、上位２チームとは常に僅差の接戦を繰り広げています。日頃の生活がしっかりしているチームですから、必ず飛躍するものと確信しています。

One for all, All for one.　No.119

R5.12.18　「全校集会」

冬期休業に先立ち、放送で全校集会を行いました。一年を通して、生徒の皆さんは様々な場面で本当によく頑張ってくれました。

来校者からは、挨拶やマナーについてよくお褒めの言葉をいただきました。地域からも社会貢献に関する活動への評価を数多くいただきました。また、部活動では、支部大会での活躍はもちろん、全道、全国大会でも大いに活躍してくれました。

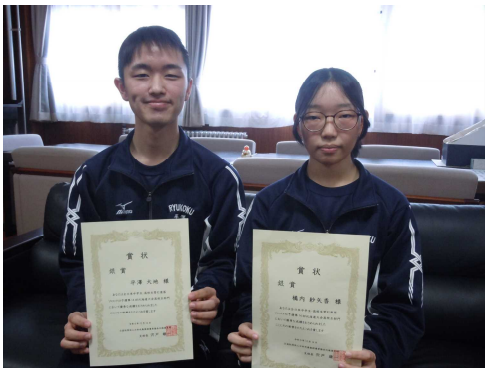
先輩方の言動に、後輩もついていきます。そこに旭川龍谷の新たな伝統が築かれていきます。今年度のキャッチフレーズにある「創り出そう次世代の龍谷　君の未来は君の手で」に向かって、来年もさらなる飛躍の年にしてくれることを心より願っています。

One for all, All for one.　No.120

R5.12.22　「吹奏楽ソロ、銀賞に輝く！」

１６日に恵庭で開催された「全日本管打楽器ソロコンテスト予選北海道大会」高校生部門で ２年生の 平澤 大地君がユーホニュームで「銀賞」、１年生の 橘内 紗矢香さんがビブラフォーンで「銀賞」をそれぞれ受賞しました。

各審査員の評価では二人ともに素晴らしいコメントをいただいており、今後の自信になる大会になったことと思います。



フルートの経験も持つ平澤君は「楽器によって音の出し方や扱い方で大きく音色が変わります。それをどう聴く人の心に響かせられるかが難しくもあり、演奏の魅力でもあります」と言います。

また橘内さんは「審査員の前でのソロ演奏に緊張もありましたが、いざ始まってみると普段通りの演奏ができて良かったです」と振り返ってくれました。鍵盤のたたき間違いがないように意識しながら日々練習に励んできた証です。

吹奏楽の皆さんは一人一人の演奏技術が高いだけでなく、地域の要請に応え多くのボランティア活動にも参加しています。報告に来てくれた二人からも素晴らしい人間性を感じました。

One for all, All for one.　No.121

R5.12.23　「無差別級で全道制覇！」

２０・２１日の両日、札幌きたえーるを会場に行われた全国高等学校柔道選手権予選個人戦で、１年生の 藤野 遥人君が８１kg級で３位、主将３年生の 箕浦 裕斗君が無差別級で優勝を手にしました。この階級での制覇はなんと１４年ぶりの快挙です。頑張りました！

団体戦は決勝リーグで宿敵に敗れはしましたが、実力伯仲の相手だけに次回こそはリベンジしてくれるものと確信しています。

柔道部は夏のインターハイ（全国大会）でも大健闘するなど飛躍の１年となりました。来年は団体戦はもちろん、着実に力をつけている個々の活躍にも大注目です。

One for all, All for one.　№122

R5.12.24　「全国高校駅伝」

23 日（土）10：20、スターターの合図で全国代表校の第一走者が一斉にトラックから都大路へと駆け抜け、５名のランナーが約 21 キロの道のりを競い合いました。

12 年連続出場となった駅伝部、大きなプレッシャーの中、本当によく頑張りました！順位は 25 位と選手たちの目標にはわずかに届かなかったようですが、見事な走りで襷をつなぎ通し、昨年よりも早いタイムでゴールした姿には感動しました。

これまで様々な試練を乗り越え、こうして全国大会に出場すること自体、並大抵の努力では叶いません。

日々の練習はもちろん、日常の学校生活、礼節、他者への思いやりなど、どれをとっても駅伝部は模範的でありました。その過程の中で得たものや身に付いたものは、必ず一人一人の人生を豊かにしていくことでしょう。

そうした人間性を日々大切にしているからこそ、自らを律し、全国でも活躍できる選手になるのだと改めて実感しました。

また、この大会を最後に引退となる３年生の皆さん、本当にお疲れさまでした！苦楽を共にしてきた仲間だけに、見ていてもその絆の深さが伝わってきます。

今後は、走ることを続ける人、走ることから新たな目標へと転換する人など様々ですが、３年間、自らの役割を全うした達成感、自信、誇りが素敵な笑顔となって一際輝いていました。

このたびの大会に係り、保護者の皆様はじめ、多くの関係者や地域の皆様から多大なご支援を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。